

# 令和元年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

④課題:インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性を持つ俵型大納言小豆品種の育成(29~元年度)

代表者:京都府農林水産技術センター生物資源研究センター 主任研究員 伊藤寿美子

## 目的

高級和菓子の原料である京都府産の大納言小豆において、インゲンマメモザイクウイルス抵抗性と機械収穫適性を有する品種を開発し、収量の安定化と担い手不足への対応を図る。

## 成果

### ①生産力検定と機械収穫適性が高い系統の選抜

・精子実重、精粒歩合、百粒重等からインゲンマメモザイクウイルス抵抗性を有する有望系統として、665、502-9、651-11の3系統を選抜した。今後は、加工適性評価や現地適応性試験を行い、品種登録出願する系統を絞り込む予定である。

### ②味認識装置を活用した加工適性評価

・有望6系統および京都府の小豆品種(京都大納言、紅舞妓大納言)の令和元年産子実、北海道の小豆品種(北海道産とよみ大納言)の平成29年産子実を用いて、水煮小豆の懸濁液を供試し、「旨味」、「旨味コク」の測定した結果、京都大納言と育成系統間には「旨味」「旨味コク」の差がなく、育成系統は京都の小豆の特徴を備えていると思われた。

味認識装置で測定した育成系統および対照品種の水煮小豆の旨味・旨味コクの相対値(中央部が京都大納言)

